

平成 21 年 10 月 吉日

報道関係者各位

主催：全国シニアライフアドバイザー協会

後援：(財) シニアルネサンス財団

全国一斉特設電話相談「シニアの悩み 110 番」 集計結果のご報告

拝啓 時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃からシニアライフアドバイザーの活動には格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

さて、9月26日(土)、27日(日)の両日、全国8ヵ所にて開設しました電話相談「シニアの悩み 110 番」は、805人から相談を受けることが出来ました。(財)シニアルネサンス財団は財団創立以来16年間電話相談事業を開設してまいりましたが、今回はメディアの皆様のご支援により驚異的な相談件数となり、メディアの威力と信頼度の高さを、今更ながら認識しました。

これも偏に、皆様のご協力の賜物にほかなりません。ここに深く感謝申し上げます。

電話相談を受けました結果が纏まりましたので、ご報告させていただきます。よろしくご査収のほど、お願い申し上げます。

「平成21年度版 高齢社会白書」によりますと、2008年時点での65歳以上の高齢化率は22.1%、75歳以上は10.4%となっています。2055年にはこれらの比率がそれぞれ40%、25%となる社会が到来すると予想されています。

わが国は、1994年に「高齢化社会」から「高齢社会」になって以来、世界のどの国も経験したことのない高齢社会の道を直進しています。平均寿命につきましては、2007年現在で男性79.19歳、女性85.99歳と年々寿命が伸び続けています。この結果、ますます『高齢者の人生の生き方』が重要な課題となっています。

今回の特色としては、一人暮らし世帯からの相談が多かったことです。また、相談総件数の4割近くが65歳以上の高齢者からの相談でした。日本の高齢夫婦世帯と一人暮らし世帯の割合は1980年ではそれぞれ16.2%、10.7%だったのに対し、2007年では29.8%、22.5%と、いずれも顕著に増加しており、特に一人暮らしの増加率が2倍以上と目立っています。今回の相談件数は、こうした社会現象に呼応しており、今後も、この傾向は続いていくと思われま

す。相談の内容といたしましては「経済」問題、中でも「生活苦」からの相談が目立ちました。高齢者の所得格差が大きくなっており、生活保護を受けている高齢者の割合も増加しています。

当協会及び(財)シニアルネサンス財団では、引き続きシニアの自助自立をサポートする活動を通して、行政、企業と市民のインターフェースとしての役割も果たしていく所存です。

今後とも、シニアライフアドバイザーの活動および(財)シニアルネサンス財団の事業に対し、末永くご指導ご鞭撻ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬具

「シニアの悩み 110 番」の結果についてのお問い合わせは下記までお願いします。

NPO 法人「関東シニアライフアドバイザー協会」

担当： 佐藤、菊井、石寺

電話： 03-3495-4283

Eメール： info@kanto-sla.com

平成 21 年度「シニアの悩み 110 番」

集計結果報告書

主催：全国シニアライフアドバイザー協会

後援：(財) シニアルネサンス財団

1. 開設要領

- ・日 時 9月26日(土)・27日(日) 10:00～17:00
- ・場 所 札幌・仙台・東京・名古屋・大阪・広島・福山・福岡 計8ヵ所
- ・相談員 シニアライフアドバイザー

2. 相談者数 805人

男性 259人 女性 546人 (男女比 32% : 68%)

65歳以上の高齢者からの相談が4割近くとなっており、特に75歳以上の方からの相談が目立って多かったです。これらの方々は、家族からではなく本人自身からの電話でした。75歳以上になりますと、多くの方が、健康であっても、今後の人生に対し、不安や寂しさを感じていることが強く窺われました。

男性からの相談が3割以上を占め、今までになく男性の相談者が多かったことが指摘できます。一般的に男性は、心の悩みをなかなか打ち明けられない上、話し相手や相談相手も見つからないという問題を抱えている方が多いようです。

相談内容の内訳をみますと、一番に多い相談が、健康への不安。次に、生き甲斐。三番目は、家族・夫婦間。そして年金、借金などの経済問題が四番目、五番目となりました。

今回の相談から感じられたことは、一人で悩まない、そして引きこもらないで、進んで相談し、問題解決しようという高齢者が増えてきたことです。

3. 相談内容 上位5項目

1位 家族・夫婦	145件 (18%)
2位 健康・医療	135件 (17%)
3位 生き方	77件 (10%)
4位 経済	70件 (8%)
5位 遺言・相続	63件 (8%)
総数	805件 (100%)

相談内容は、家族・健康・生き方・経済などが複合的に絡んでいます。このため、行政へ相談に行っても、複合的問題として処理しきれず、たらい回しにされたりするので、悩みが解決しないと訴える人が少なくありませんでした。今回の電話相談が「総合的になんでも相談できる」「プライベートで深刻な生活問題なので、利害関係のないところで相談したい」という悩みを抱えている人々の共通した要望に応えることができた結果が、805件という数字につながったと思います。また、高齢者が日常的に気軽に相談する機関の紹介が欲しいとの希望も多く聞かれ、その意味でも、この活動の意義を痛感し、今後こうした活動を広報していく重要性を強く感じました。

4. 今回の相談内容の特色

家族・夫婦 ——家族関係の悪化に悩む——

～～金銭・介護等で亀裂が～～

通年開設しています常設電話相談内容からみても、今回は「家族・夫婦」の相談が多いと予想していました。特に核家族化が進み、家族構成が崩れ、親を扶養すべき子供側は不安定さが増す雇用環境や伸び悩む収入という現状で、金銭的に親の面倒まで見られないという現実があります。そして介護が必要な親は心底では家族に見て欲しいと期待していますが、子供に頼れない事情が明らかになったときに、金銭、介護等で親子間に亀裂ができてしまうケースが増えています。そのことが高齢者の「孤立化」の一因に結びついていると考えます。夫婦間では、離婚相談のほか老老介護で「鬱」になり、共倒れになりそうだという大変深刻な相談がありました。

一人暮らし ——全国的に目立った一人暮らし世帯からの相談——

～～メディアに望む、定期的な情報提供番組を～～

一人暮らし世帯の多くは、話し相手がいない、相談をする人や場所がない（子供がいても相談しにくい）、何日も人と話していないという状況下にあり、地域や人との繋がりを感じました。

一人暮らしの相談内容は健康、生活、経済、生き甲斐と多岐に亘っており、特に病気をした後の生活不安や孤独死の心配、低年金、施設入所の難しさ等々、深刻な悩みばかりでした。

一人暮らしに限りませんが、高齢者が「高齢社会を生き抜く」ための情報取得の機会が少ないことが問題となりました。たとえば「知得情報」などの形で情報提供番組を組み、相談窓口、相談場所等がわかるように、1週間に1回、或いは1ヶ月に1回でも良いので、スポット的にテレビ、ラジオ、新聞等で流して欲しいという強い要望もありました。

経済 ——生活苦がもたらす悲劇——

～～「見守り制度」を社会制度として確立～～

生活保護者よりも遥かに低い年金で暮らしていて、苦しいと訴える人が全国的に多く、生活苦から精神を病んでしまった人、更に「生きている意味がない。」と感じている人たちが増えています。生活面だけで良いので、こうした人を見守っていきける生活保護者並みのサポート体制を社会で考えて欲しいとの切実な希望がありました。

住居 ——いまだ改善がみられない「身元引受人」「保証人」制度——

～～住み替えができない～～

- ・ 市営住宅に当たったが身元引受人がいなくて困っている
- ・ 安い住宅やマンションに移りたいが保証人がいない
- ・ 病院に入院するにも保証人が必要と思うと心配 等々の相談が今回も引き続きありました。兄弟姉妹もすでに年金暮らしになっていたり、家族がいても断絶している場合は、これらの家族が保証人等になるのが困難になってきています。しかしながら、家族間が断絶状態でも戸籍上は繋がっていますので、行政は保証人になってくれませんし、民間では有料となります。それで立ち往生しているケースが多いようです。

家族構成が崩れつつある現在、家族の支え合いを前提にした社会保障制度は「個々人」を前提にしたシステムに変えていく必要もあると考えます。

「シニアの悩み110番」

電話相談内容・内訳

実施日：平成21年9月26日（土）・27日（日）

内 容	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	東中国	九州	計	%	順位
家族・夫婦	15	7	27	24	25	5	2	40	145	18	1
健康・医療	19	12	33	17	13	11	5	25	135	17	2
生き方	5	12	17	5	7	8	3	20	77	10	3
経済	4	2	17	3	15	2	9	18	70	8	4
遺言・相続	2	11	0	26	5	2	1	16	63	8	5
介護・福祉	4	8	12	4	10	7	1	14	60	7	6
住居	7	2	17	11	1	1	0	18	57	7	7
年金・保険	4	7	8	7	4	5	1	18	54	6	8
その他	4	1	8	14	5	3	1	11	47	7	8
人間関係	14	2	2	4	7	1	2	11	43	5	9
仕事	5	3	5	2	1	0	0	6	22	3	10
終末期の選択	1	3	5	3	0	1	0	1	14	2	11
成年後見	0	0	1	0	0	2	0	9	12	1	12
消費生活	1	0	0	0	1	0	0	4	6	1	13
合計	85	70	152	120	94	48	25	211	805	100	

◎ 相談者 男女別 地域別 内訳

	北海道	東北	関東	中部	関西	中国	東中国	九州	計	%
男性	16	30	51	28	40	19	6	69	259	32
女性	69	40	101	92	54	29	19	142	546	68

* **(財) シニアルネサンス財団**

財団のホームページ <http://www.sla.or.jp/> をご覧下さい。

* **シニアライフアドバイザー(SLA)とは**

(財)シニアルネサンス財団(1992年設立、内閣府主管)が内閣総理大臣の許可を得て実施している中高年齢者総合生活相談員の養成事業におけるシニアライフアドバイザー養成講座を終了し、その資格審査に合格したものです。

シニアライフアドバイザー(SLA)は人生80年時代、定年退職後・子育て終了後に迎えるシニアライフを健康で経済的困難もなく、かつ不安やトラブルもなく、生きがいをもって幸せに生きられるようにアドバイスしたり、シニアと共に問題解決を図ることをモットーとしてボランティア活動を行っています。

現在シニアライフアドバイザー(SLA)は全国に2,500名おります。

* **全国シニアライフアドバイザー協会とは**

シニアライフアドバイザー(SLA)が組織する団体です。

現在、北海道・東北・関東・中部・関西・中国・東中国・九州の8協会があり、各協会が連携しながら活動しています。

社会に向けた活動の一つとして春3月、秋9月、

年2回全国一斉電話相談「シニアの悩み110番」を実施しています。

「シニアの悩み 110番」の推移

	年度							6年間の上位10位の推移						
	16年	17年	18年	19年	20年	21年		順位	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
健康	35	41	34	51	33	180								
福祉介護	15	12	11	22	13	86								
成年後見制度	7	4	8	22	17	33	1位	遺言・相続	遺言・相続	遺言・相続	遺言・相続	遺言・相続	遺言・相続	家族夫婦
年金	68	22	16	51	10	62	2位	年金	家族	家族	家族	家族	家族	健康・医療
経済	21	12	17	24	25	105	3位	家族	住居	住居	健康	健康	健康	遺言相続
遺言相続	73	78	64	146	73	174	4位	住居	年金	健康	年金	年金	経済	経済
住居	43	24	21	40	22	87	5位	生きがい	医療	医療	住居	住居	住居	生き方
家族夫婦	68	58	62	73	52	199	6位	健康	健康	年金	生き方	成年後見	成年後見	住居
人間関係	11	9	15	11	14	50	7位	医療	福祉・介護	婚姻	経済	人間関係	人間関係	福祉・介護
生き方	22	9	14	25	9	88	8位	福祉・介護	財形	人間関係	福祉・介護	福祉・介護	福祉・介護	年金
仕事	8	5	9	2	8	27	9位	人間関係	人間関係	生きがい	成年後見	終末期	終末期	人間関係
消費	2	2	7	0	2	10	10位	税金	生きがい	福祉・介護	終末期	年金	年金	成年後見
終末期選択	6	5	5	5	11	25								
その他	27	28	36	10	11	73								
計	406	309	319	482	300	1199								

但し21年3月394件、9月805件 計1199件

